

揭示文章

課題名「肝細胞癌の診断におけるEOB造影MRI所見の最適な組み合わせに関する検討」

1. 研究の背景

肝細胞癌が疑われた場合には、CT検査またはMRI検査の結果から、病変が良性か悪性かを診断して、その治療方針が決定されます。MRI検査ではT1強調画像やT2強調画像、拡散強調画像など様々な画像から多くの情報を得ることができます。近年、肝臓を詳しくみるためのMRI造影剤「EOBプリモビスト」が発売されました。腹部MRIでこれを使用すると、従来の造影剤と同様に肝臓や病変の血の流れがわかるとともに、この造影剤が肝細胞に取り込まれる特徴を有していることから、肝臓内の異常な組織、すなわち肝細胞癌の診断に有用とされています。「EOBプリモビスト」を用いた造影MRIは、造影CT検査よりも肝細胞癌をより正確に診断できると報告されています。従いまして、最近の肝臓のMRI検査のうち大部分が、「EOBプリモビスト」を用いて行われています。しかしながら、一部の病変については診断が難しいことがあります。

2. 研究の目的

肝細胞癌を診断する上で、MRI検査から得られた様々な画像所見の組み合わせの中で、どのような組み合わせでより良い診断ができるかを検討することです。

3. 研究の対象

対象となる患者様は2009年以降に当院で肝臓のEOB造影MRI検査を受けられた方です。

45例の患者様の登録を目標としています。患者背景の情報と画像データを使用させていただきます。

4. 研究の方法

過去に検査された造影MRIの画像をお預かりし、画像所見の組み合わせについて検討いたします。あなたの今後の診療には影響はありません。

5. 個人情報保護への配慮

本研究では個人情報には匿名化され、個人が特定されるような情報は一切公表されません。上記の研究対象に該当する患者様で、参加を辞退したいというご希望やご質問があれば、下記の窓口までご連絡ください。

金沢大学医薬保健研究域医学系 経血管診療学（金沢大学放射線科）

研究責任者 小坂一斗 電話 076-265-2323(放射線科医局)

2013年12月